



Harmony

今号は新病院長に寄稿いただきました。

新病院長になって

4月から徳島大学病院長に就く香美祥二です。宜しくお願いします。小児科学教授も併任しています。少し自己紹介をいたします。私は、徳島で生まれ育ち、徳島大学医学科を卒業した後に徳大小児科学教室を中心に歩んできた生粋の徳島人です。この間、新潟市、ソルトレイクシティ（米国）と2度北国（豪雪地帯）に研究留学した時期があり、今はつくづく温暖な四国徳島の暮らしの良さを実感しています。平成16年（2004年）より小児科学教授に就き、新生児期から小児期の疾患診療と子どもの育ちを支援することに教室員一丸で尽くしてきました。診療科の特性上、外来、病棟では複雑な業務になりがちですが、多くの職員方との協働で無事運用できていることを感謝しています。

さて、徳島大学病院は県内唯一の特定機能病院として、安全で安心な高度専門診療を実践し先端的医療の開発・推進に貢献しています。県内医療の柱として県民から大きな期待と信頼を寄せられる所以です。新病院長として、引き続き県民や広く国民の要望に応えられるよう患者さん第一の質の高い医療提供体制と臨床研究体制を強化してまいります。大学病院の診療を支えているのは医療者として志を同じくする職員のチーム医療です。これを維持し発展させるために、若手医療人の育成や職員のキャリア形成支援に力を注ぐとともに全職員にとって働きがいのある病院作りに努めたいと思います。

本年度は新元号が施行され新しい時代の幕開けの年です。本院もメディカルストリートが開通し、医学部臨床A棟から歯学部校舎を結ぶ福利厚生棟（仮称）の建設などにより病院環境が大きく変わる機運に満ちています。一方で、少子高齢化のもと地域医療構想の進展や消費税増税など社会保障制度の変革期でもあります。大学病院の進むべき道のりは決して平坦なものではないと思います。皆さまの協力のもと、新しい時代の大学病院をしっかりと築いていきたいと思っておりますので、どうかご支援の程宜しくお願いいたします。

病院長 香美 祥二



このコーナーでは、病院でとりくんでいる様々な事業を紹介します。

未診断疾患イニシアチブ(IRUD)について ～ゲノム情報を解析して診断のついていない患者さんの診断をつけます～

日本医療研究開発機構（AMED）で行われている事業の1つに未診断疾患イニシアチブ Initiative on Rare and Undiagnosed Diseases (IRUD アイラッド)があります。日常の臨床現場で診断がつかず、希少もしくは未知の疾患の可能性がある患者さんの診断を確定し、病態解明を進めることを目的にしております。診断がつかずに悩んでいる患者さん（未診断疾患患者）に対して、遺伝学的解析結果などを含めた総合的診断、および国際連携可能なデータベース構築等による積極的なデータシェアリングを行う体制を作り、希少・未診断疾患の研究を推進するプログラムです。単に遺伝学的診断をつけるだけでなく、治療法を見出し治療可能になるように研究が行われます(IRUD Beyond)。

平成28年に徳島大学病院は四国高度協力病院に選ばれ、さらに平成30年には拠点病院に選ばれました。未診断の患者さんがいらっしゃる場合は、コンサルトシートに必要事項を記入の上、徳島大学病院の専用窓口へ送付ください。コンサルトシートはIRUDホームページ irud.med.tokushima-u.ac.jpからもダウンロードできます。IRUD診断委員会で、患者さんがIRUDの解析対象に該当するか検討を行います。患者さんがIRUDの解析対象と判断された場合には、遺伝カウンセリング外来を受診して頂きます（お子さんの場合はご両親と共に）。ここで本研究について説明を行い、遺伝カウンセリングを行います。同意が得られた場合には遺伝子解析のため各診療科外来にてご両親と患者さんの採血を行います（ご両親の血液検体は、個人差の変異と病的変異を判別するために必要です）。解析結果はIRUD診断委員会において検討し、主治医の先生に伝え今後の診療にご活用いただきます。また再度、患者さんに遺伝カウンセリングを行い、その中で結果の説明を行います。

徳島大学大学院・医歯薬研究部・臨床神経科学分野 講師 瓦井俊孝



NEWS・イベント大募集！

「Harmony」は、病院職員を対象に、院内情報の伝達や職員のコミュニケーションの活性化などを目的として発行しております。行事やイベントなどのNEWSや院内で周知してほしいTOPICSなどがありましたら、どんどん病院総務課広報・企画係（bsoumuss1@tokushima-u.ac.jp）までお寄せください。また、「Harmony」で取り上げたら良いと思うテーマなど、ご意見・ご提案もお待ちしております。



病院NEWS: 平成30年度全国国立大学病院の経営改善案について

経営企画係三好主任が、最優秀賞を獲得しました

法人化以降、大学病院を取り巻く環境は一層厳しく、大学病院が地域医療の中心となり継続的に高度先進医療を提供していくためには、経営面でのさまざまな改革が必要となってきています。平成28年4月から全国国立大学病院が、収入と支出を計算する管理会計システム(HOMAS2)を一斉稼働させたことにより、他大学病院との比較データを用いて本院の立ち位置や取り組むべき事項に気づき、経営改善案を作成することが可能となりました。

このシステムを用いて作成された各大学の経営改善案について、平成30年10月25日、26日に、全国国立大学病院の経営企画関係事務職員が一斉に集まり、グループワークを実施し意見交換を行いました。意見交換の結果、各グループのなかで内容が最も参考になったとして選出された9大学による事例発表が行われ、参加者130名の投票の結果、徳島大学病院経営企画係三好主任の事例発表が最優秀賞に選ばれました。

経営企画係は今後も多数のご提案をさせていただきますので、ご理解とご協力をお願いいたします。



病院新採用職員の紹介

神経内科 和泉唯信特任講師



神経内科の和泉唯信です。

広島県三次市出身です。1995年に徳島大学を卒業し、大学院を修了した2001年4月に初代教授堀龍児先生に声をかけていただき母校に帰ってきました。2008年4月から2018年3月までは診療支援医師として働いた後、2018年4月から特任講師として常勤に戻りました。このような経歴でありますから皆様には継続して大変お世話になっておりますことを改めてお礼申し上げます。

専門は神経難病と認知症です。特に筋萎縮性側索硬化症(ALS)の治療法開発に頑張っております。現在は多くの皆様に助けられながら「高用量E0302の筋萎縮性側索硬化症に対する第Ⅲ相試験(医師主導治験)」の治験調整医師をつとめています。治験完遂のために引き続きのご協力をなにとぞよろしくお願い申し上げます。

地域脳神経外科 島田健司特任講師



平成30年4月より地域脳神経外科診療部に採用されました島田健司と申します。脳血管障害を専門としており、従来の開頭して、顕微鏡を使った手術に加え、カテーテル治療による血管内治療も行なっております。どちらの治療法にも長所と短所があるので、患者様の疾患毎に、どちらがより安全で確実かを熟慮した上で治療法を決定しています。

休日は病院で過ごすか、家で掃除をして過ごしています。お酒を飲むことが唯一の趣味ですが、いつ脳卒中の患者さんが搬送され、手術になるかわかりませんので、あまり趣味に没頭することができません。

今後も徳島県の脳血管障害治療に貢献していきたいと思いますので、地域の人々への脳卒中に関する啓蒙から治療技術の向上に至るまで日々精進して参りたいと思います。

歯周病科 西川泰史医員



徳島大学病院歯周病科でお世話になっている西川泰史と申します。平成29年度に徳島大学大学院口腔科学教育部博士課程修了後に医員として採用して頂き、主に歯周病患者の歯科治療に従事しています。歯周病は、自覚症状が乏しい生活習慣病であり、患者さんによる自覚とセルフケアが不可欠です。そのため、患者さん本人のモチベーションを上げ、そして保っていただけるか考えながら治療を行っています。また、歯周治療は大変難しく高度な技術を要するため、先生方のご指導をいただきながら少しでも治療技術が向上する様に日々頑張っています。趣味は、草野球と釣りです。今年の目標は、通算打率を上げることと徳島での海釣りデビューをすることです。今年も新たな発見のある1年にしたいと思います。

至らぬ点も多々ありますがご指導、ご鞭撻のほどよろしくお願い致します。

卒後臨床研修センター 矢野哲弘研修医



平成29年度新規採用となりました、卒後臨床研修センター所属、矢野哲弘と申します。私はAWAすだちプログラムを選択し、2年間の研修を大学病院や協力病院で急性疾患から慢性疾患まで、また医療に関わる多くのことを勉強させていただきました。このプログラムでは個々に応じたオーダーメイドのプログラムを組むことができるため、私は県立中央病院で多くのcommon diseaseを経験し、大学病院では各診療科での専門性の高い治療も勉強することが出来ました。たくさんの指導医の先生の下、多くの経験を積み充実した研修生活を過ごしています。

今後の目標ですが、この4月から泌尿器科に入局し、新しい環境で一人前の医師として活躍できるよう日々精進し、患者様やスタッフの方々の方々に力になれるように頑張っていきたいと思いますのでよろしくお願い致します。

看護部東病棟6階 松本充鈴看護師



4月に東病棟6階(食道・乳腺甲状腺外科、呼吸器外科、循環器内科)に配属になりました、松本充鈴と申します。当病棟は外科と内科が混在している病棟で、主に急性期手術と内科的(循環器)検査・治療を中心とした病棟ですが、抗癌剤治療や疼痛緩和治療なども行っており様々な患者さんが入院されています。様々な病態の患者さんを看護する上で、多くの知識と技術を必要とされています。日々の看護を行っている中で自分自身の知識・技術不足を感じることもありますが、先輩方にご指導いただき日々、楽しく看護に取り組んでいます。

休日は友人と食事をしたり、飼い猫と遊んだりして気持ちをリフレッシュしています。

これからも、たくさんの知識・技術を身につけ、安全・安楽な患者さん中心とした看護を提供できるよう、日々精進していきたいと思っています。